

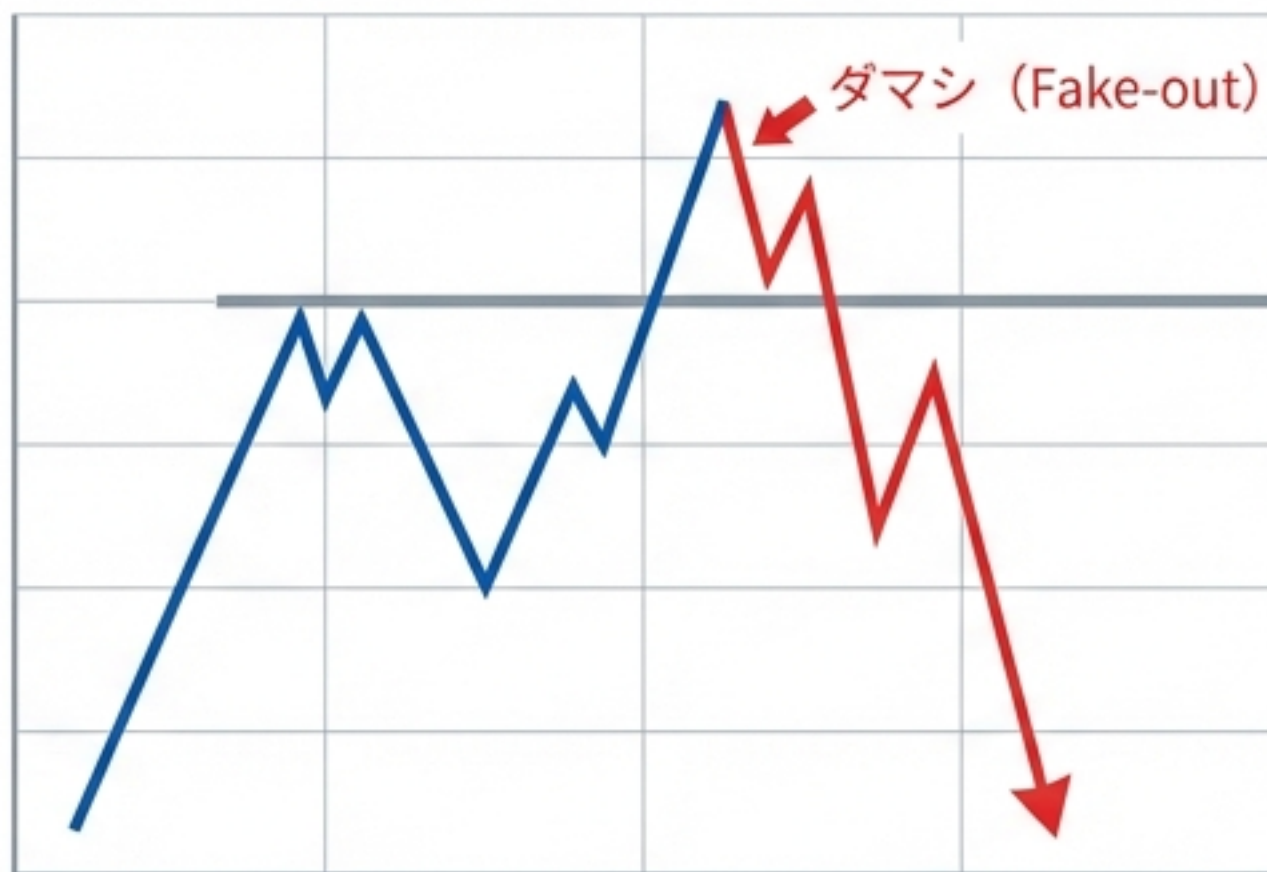
# 設計型ブレイクアウト

感情を排除し、確率を積むための「ダウ理論×定率投資法」

ギャンブルから、確率の設計へ。



# なぜ、ブレイクアウトで資金が溶けるのか？

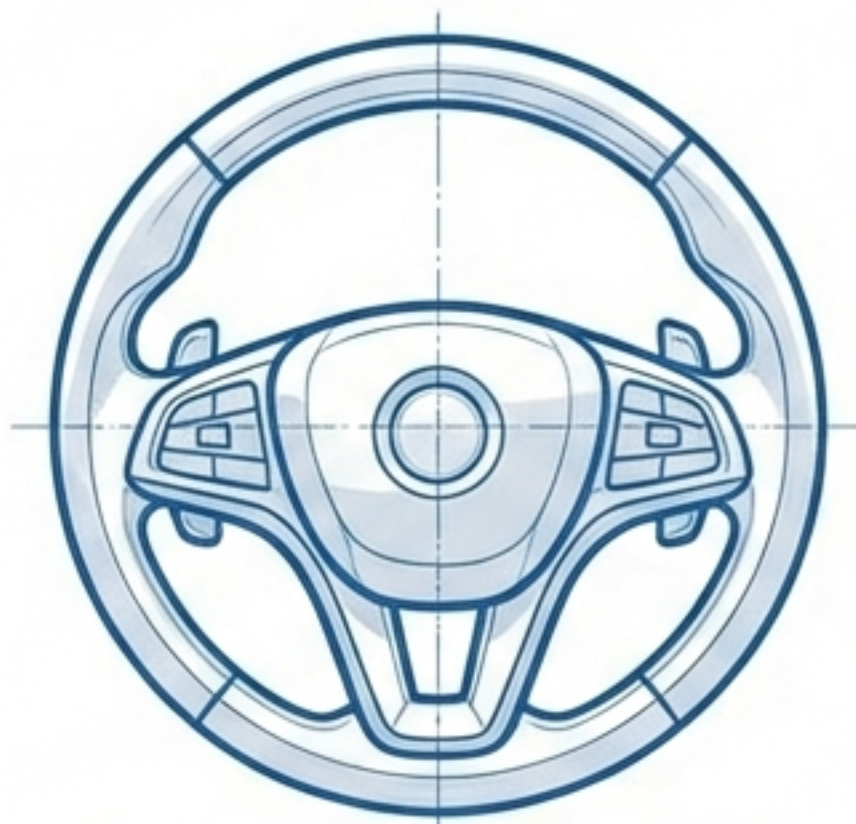


- 「レンジを抜けたから買ったのに、すぐ戻された（ダマシ）」
- 「ブレイクを追いかけて高値掴み」
- 「連敗を取り返そうとしてロットを上げ、一撃で退場」

**手法自体が悪いのではない。問題は「設計」の欠如にある。**



# ブレーキアウトは「羅針盤」ではなく「加速装置」である



方向決定（ダウ理論）



加速装置（ブレーキアウト）

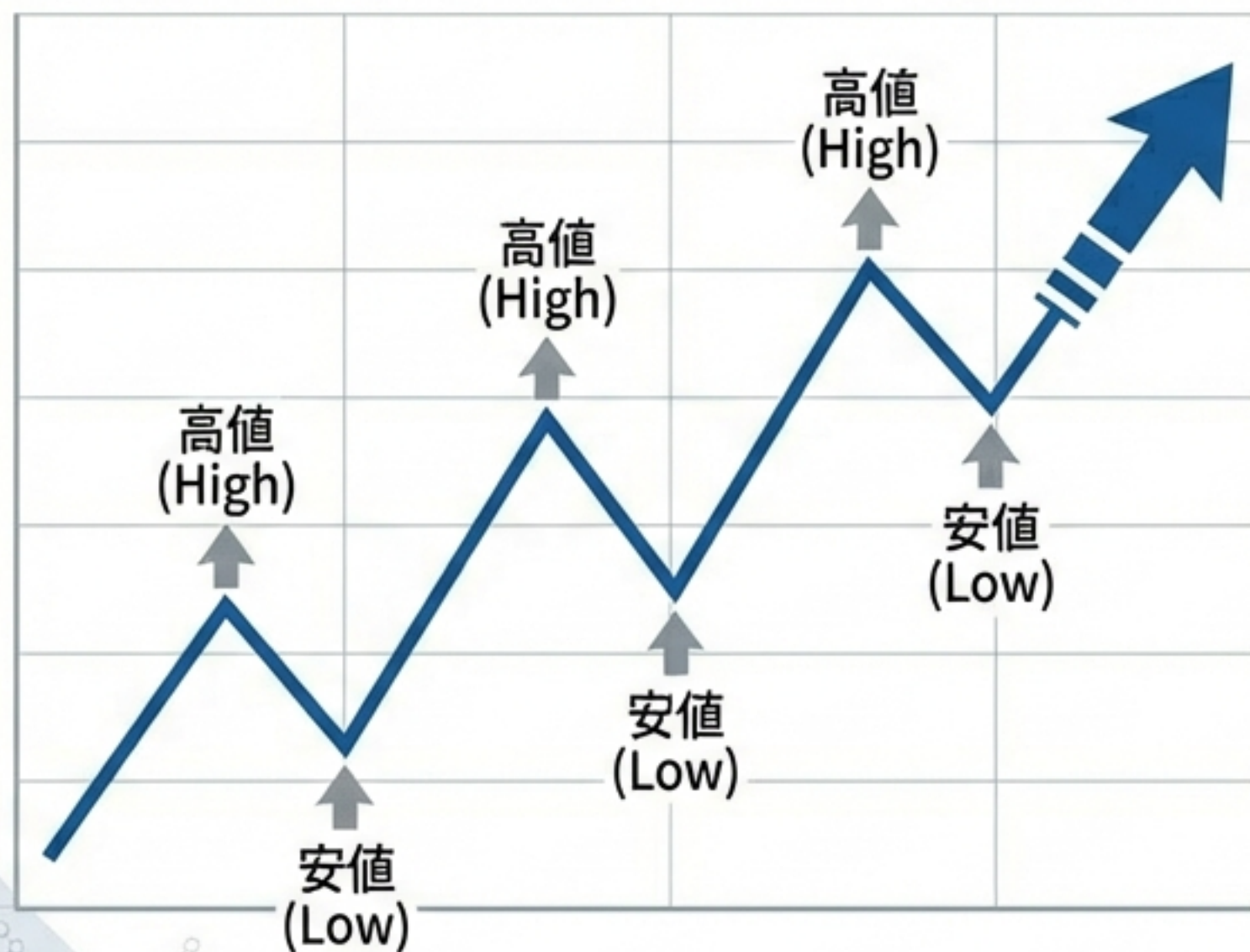
**間違い**：ブレーキした方向に飛び乗る（方向が決まっていない）

**正解**：方向が決まった後の「加速」としてブレーキを使う

「ブレーキは方向を決めるものではない。ダウ理論が方向を決め、ブレーキがそれを加速させる」



# 第1の柱：ダウ理論で環境を「固定」する



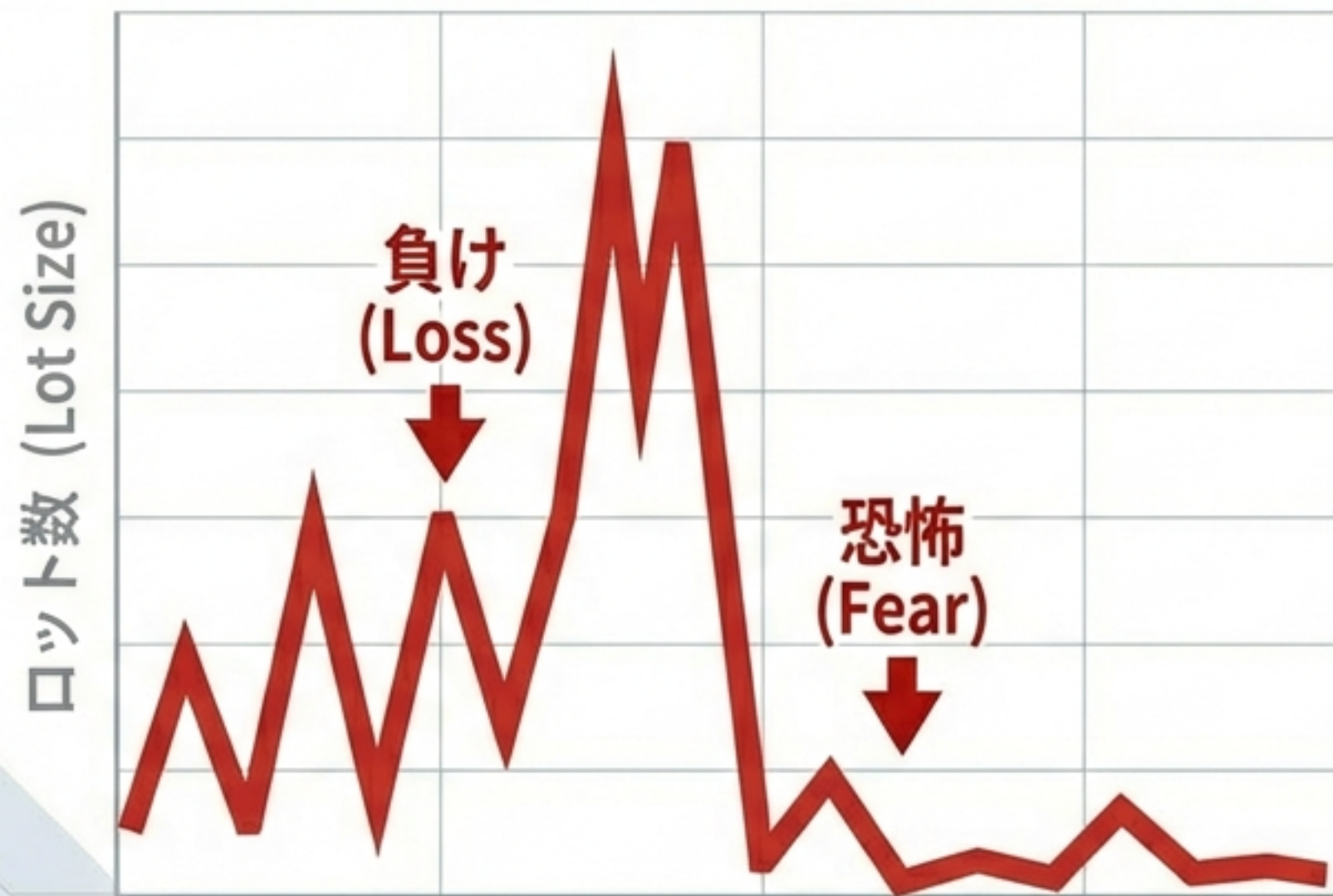
## 上昇トレンド (Uptrend)

- ・ 上昇トレンド: 高値・安値が切り上がっている
- ・ 下降トレンド: 高値・安値が切り下がっている
- ・ ルール: 必ず「日足以上」の構造 (Structure) に従うこと。

**構造に従うブレイクだけを狙い、構造に逆らうブレイクは全て見送る。**  
**これだけで勝率は劇的に変わる。**



# 多くのトレーダーが「ロット」で自滅する理由



- **連敗後の暴走**：「次は取り返す！」とロットを倍にする
- **恐怖による萎縮**：直前で怖くなり、適正ロット以下で入る
- **不均一なリスク**：リスクが一定でないため、資金曲線が安定しない。

裁量トレードが崩れる最大の原因は、エントリーの場所ではなく、**ロットの不安定さ**にある。



## 第2の柱：定率投資法（Fixed Fractional）

母数（資金） × リスク（%） = 固定された損失額

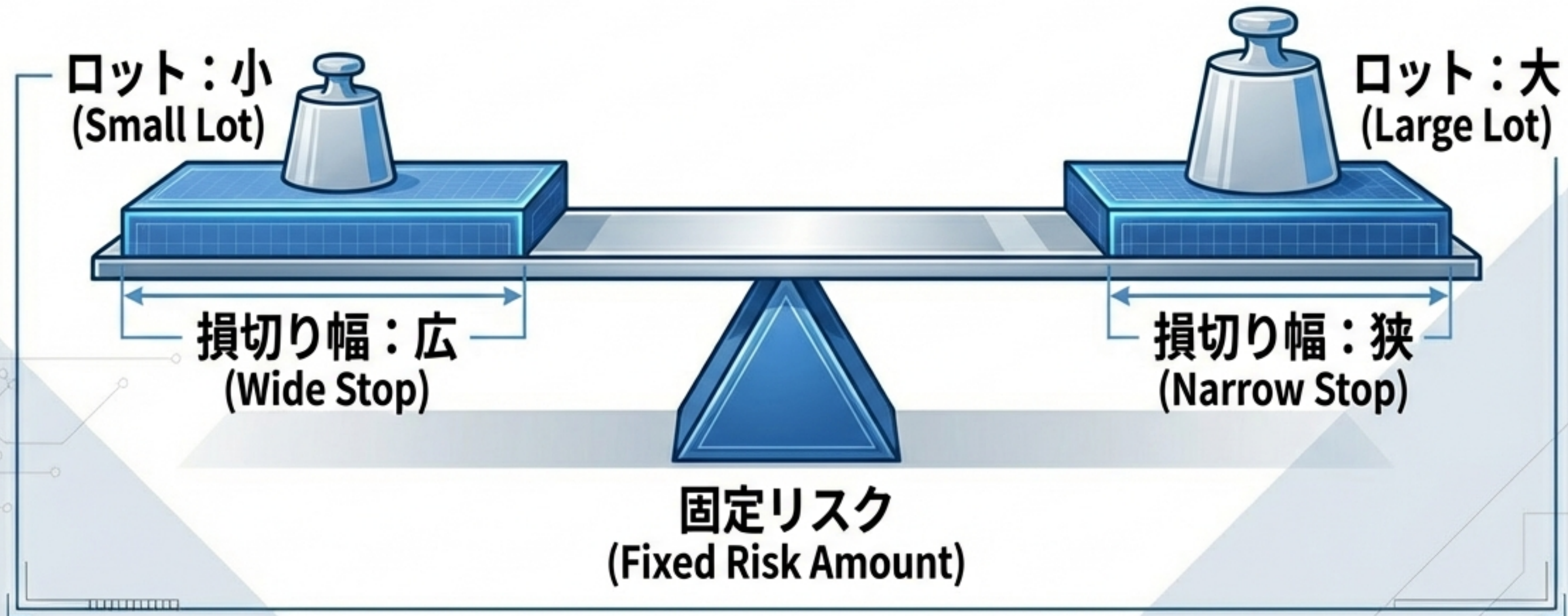
資金 100,000円 × リスク 1% = 許容損失 1,000円

どんなトレードでも、負けた時の損失額は常に一定。  
これにより「感情」が入り込む余地をなくす。



# 損切り幅に合わせて、ロットを伸縮させる

- 損切りが遠いなら、ロットを小さく。
- 損切りが近いなら、ロットを大きく。
- 常に損失額は固定されているため、連敗しても破滅せず、連勝しても暴走しない。

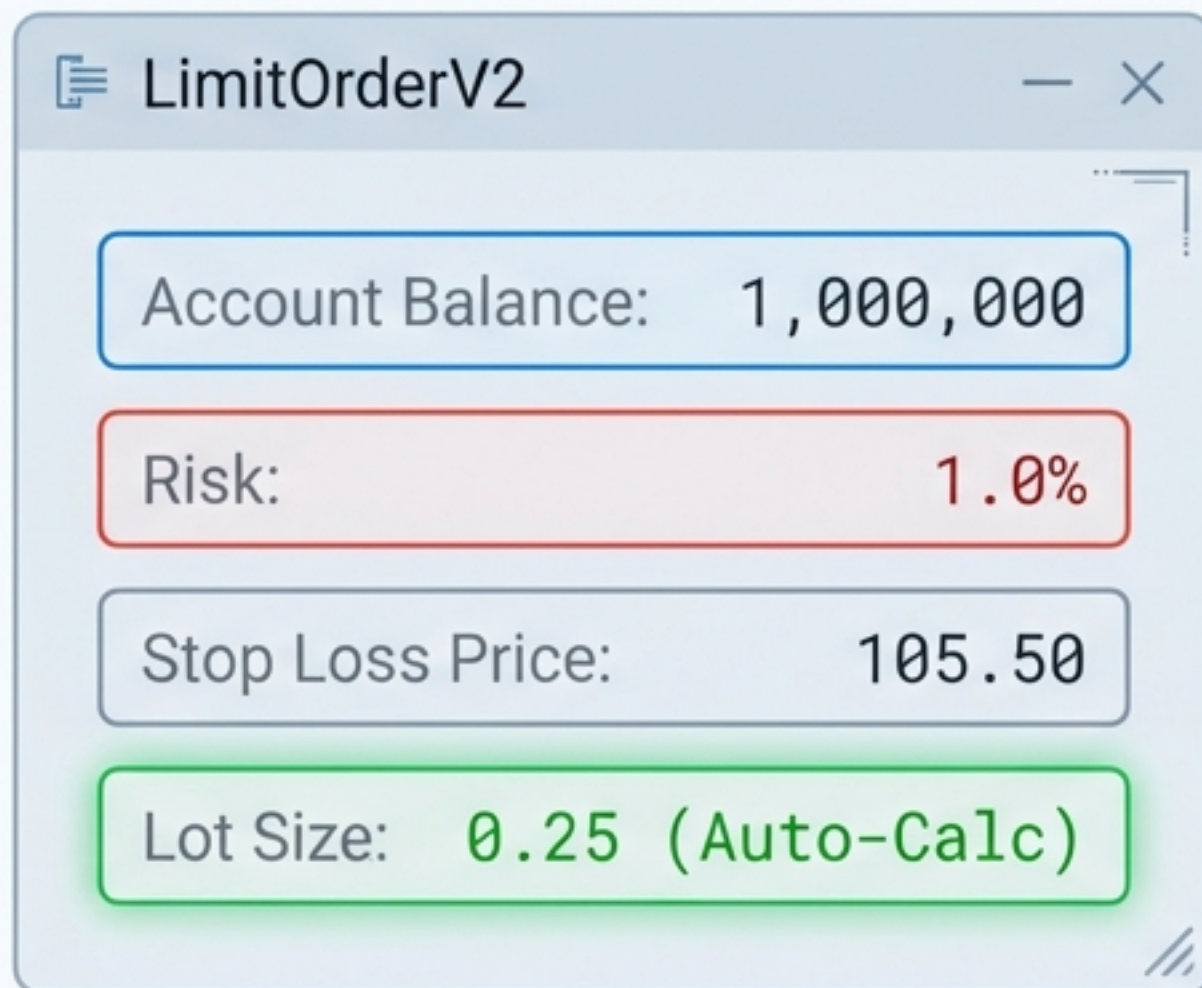




# 第3の柱：自動化（LimitOrderV2）による「鉄の規律」

## 人間（Human）

方向と損切り位置を決める。



The screenshot shows a window titled "LimitOrderV2" with four input fields. The first field, "Account Balance", has a value of "1,000,000". The second field, "Risk", has a value of "1.0%". The third field, "Stop Loss Price", has a value of "105.50". The fourth field, "Lot Size", has a value of "0.25 (Auto-Calc)".

| Field           | Value            |
|-----------------|------------------|
| Account Balance | 1,000,000        |
| Risk            | 1.0%             |
| Stop Loss Price | 105.50           |
| Lot Size        | 0.25 (Auto-Calc) |

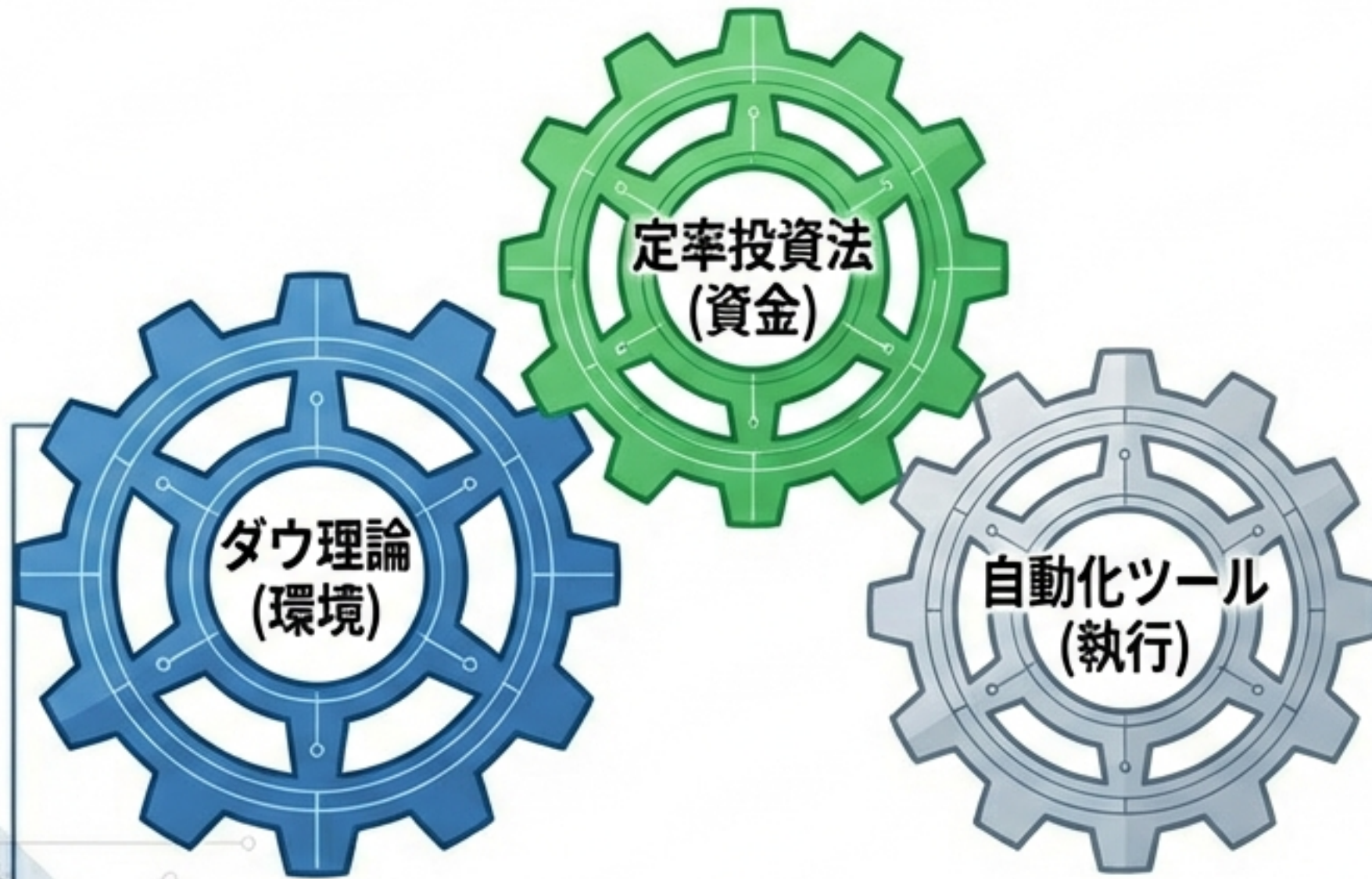
## ツール（Tool）

母数と%に基づいてロットを自動計算する。

口座残高ではなく「母数」を固定して計算することで、感情によるロット変更（ヒューマンエラー）を物理的に防ぐ。



# 「勇気」ではなく「設計」で勝つ



- 方向が固定されている（逆張りなし）
- 損切りが構造基準（意味のあるSL）
- リスクが一定（破産なし）

この3つが揃った時、トレードはギャンブルから  
「確率を積む作業」へと進化する。



# 実践フロー：準備フェーズ

## 1. 環境認識



日足以上でダウ構造  
(トレンド)を確認する。

## 2. 水平線設定



重要な高値・安値に  
ラインを引く。

## 3. 注文設置



ブレイクポイントに  
指値注文 (Limit  
Order) を置く。



# 実践フロー：設計フェーズ

## 4. 損切り設定 (SL)



構造基準（直近高値/  
安値）にSLを設置。

## 5. ロット自動算出



母数 × リスク%で  
ツールがロットを計算。

## 6. 利確設定 (TP)



リスクリワード倍率  
（例:2倍）でTPを  
自動計算。



# トレード設計の実例

⚙️ 状況：日足上昇トレンド+4時間足押し目  
資金（母数）：1,000,000円（リスク1%）

《 許容損失： 10,000円（固定）》

⚙️ ENTRY Price: 1.2000

《 STOP LOSS: 1.1950 (50pips)》

📈 LOT SIZE: 20,000 currency units (Auto-Calc)

✓ TAKE PROFIT: 1.2100 (100pips / RR 2.0)

全てが数値化されているため、「祈る」必要がない。



# なぜ、この設計は崩れにくいのか？



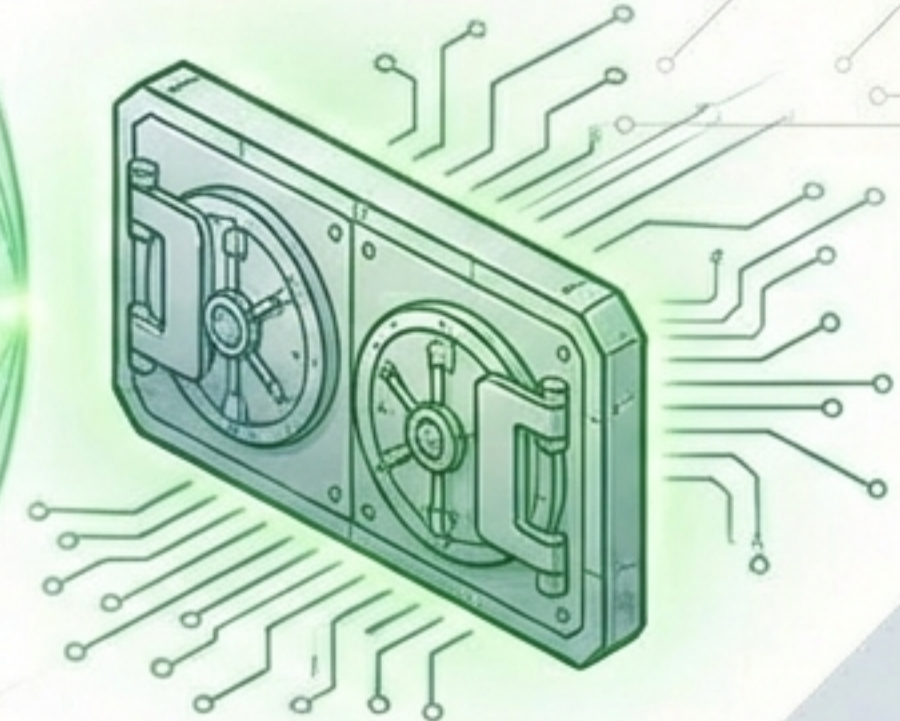
## 方向の固定

ダウ理論に従うため、  
大きな流れに逆らわない。



## 根拠ある撤退

構造が崩れた地点で損切りする。



## 資金の保全

定率法により、連敗しても  
資金ショートしない。



# トレードに「勇気」は不要である



勇気で戦うギャンブラー

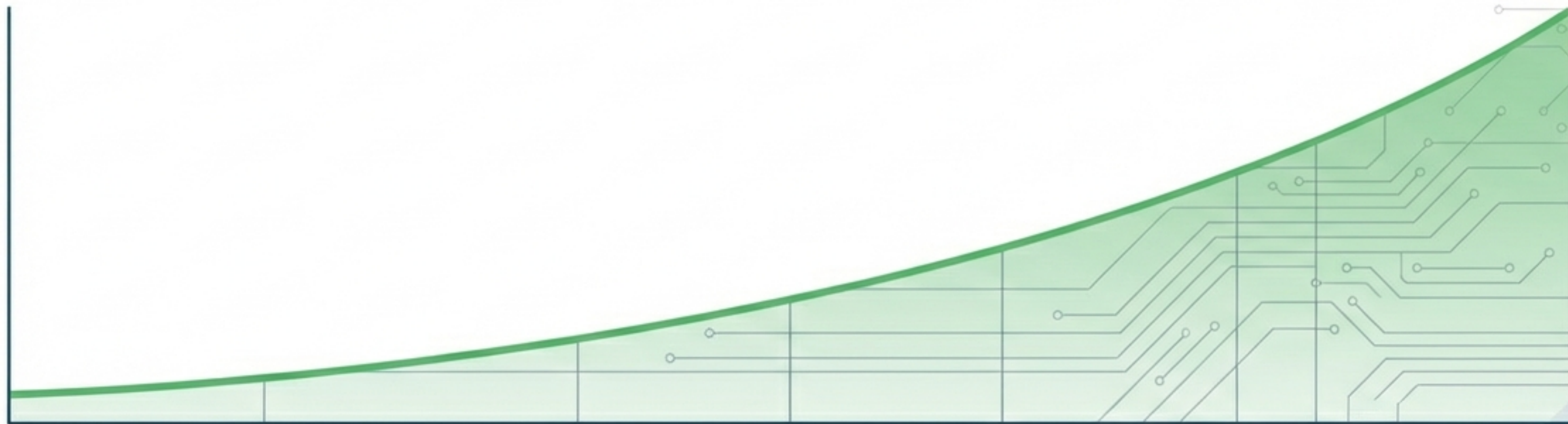


設計で戦うトレーダー

よくある誤解：「ブレイクに乗るには勇気がある」  
**真実**：必要なのは勇気ではなく、構造の理解・資金管理・機械的な算出だけ。  
「判断すること（人間）」と「計算すること（ツール）」を分ける。  
これで裁量の暴走はなくなる。



# 「当てにいく」から「確率を積む」へ



**構造** (ダウ理論) × **確率** (リスクリワード) × **資金管理** (定率法)

手法コレクターになる前に、まずは資金設計を見直そう。  
それが常勝への最短ルートになる。

設計型ブレイクアウトで、確かな資産形成を。